

Crystal Ball アクセシビリティ・ガイド リリース11.1.2.4

リリース 11.1.2.4

製作著作 © 2015

目次

はじめに	1
Crystal Ballと関連製品のアクセシビリティの有効化	1
Crystal Ballのアクセシビリティ機能	3
Crystal Ballのキーボード同等操作	5
OptQuestのキーボード同等操作	18
ドキュメントのフィードバック	21

はじめに

本書では、次の製品のアクセシビリティ機能について説明します:

- Oracle Crystal Ball (Classroom Faculty EditionとStudent Editionを含む)
- Oracle Crystal Ball Decision Optimizer
- Oracle Crystal Ball Enterprise Performance Management

オラクルのお客様は、My Oracle Supportを通じて電子サポートを得ることができます。詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc=info>を、聴覚障害のあるお客様は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc=trs>を参照してください。

アクセシビリティとCrystal Ball製品

Crystal Ballに対して特別に最小レベルのアクセシビリティを有効にする必要はありません。ダイアログのコントロールへは、タブ操作とキーボード同等操作でいつでもアクセスできます。また結果データは、Microsoft Excelスプレッドシートへの抽出と、Microsoft PowerPointスライドへの貼付けが可能で、これにMicrosoft Officeを通じてアクセスできます。Microsoft ExcelまたはMicrosoft PowerPointのアクセシビリティについては、Microsoft Officeの製品マニュアルを参照してください。

視覚障害を持つユーザーが最大限のアクセシビリティを利用できるように、Crystal Ballをアクセシビリティ・モードに切り替えることができます。詳細は、1ページのCrystal Ballと関連製品のアクセシビリティの有効化を参照してください。

Crystal Ballと関連製品のアクセシビリティの有効化

サブトピック

- アクセシビリティ・モードのアクティブ化
- アクセシビリティのデフォルトのセル・プリファレンスに関する注意

アクセシビリティは、様々な障害を持つユーザーが製品やシステムなどを使用できるようにする機能です。具体的に言うと、アクセシビリティは視覚障害(全盲、弱視、色覚障害を含む)を持つユーザーや、運動障害があつてマウスまたは標準キーボードを使用できないユーザーをサポートするための製品機能です。

Crystal Ballでは、キーボード同等操作やその他の手段で常にアクセシビリティがサポートされます。5ページのCrystal Ballのキーボード同等操作を参照してください。Crystal Ballのユーザーが追加のサポートを必要とする場合には、次の機能を持つアクセシビリティ・モードをアクティブ化できます:

- 新規予測グラフを定義するとき、信頼度グラバーと信頼度レベル・マーカーの線がデフォルトで表示されます。
- 予測、重ねグラフ、傾向、感度グラフにおける系列その他の特徴では、色のみでなくパターンも変更されます。散布図でフィルタされたデータにパターンが追加されます。
- データを使用できるかどうかと、できない場合にはその理由を示すために、アクセシビリティ・テキストは黒いグラフで表示されます。
- 「実行モードの比較」グラフでは、1つの系列が1つのパターンでプロットされるようになります。
- デフォルトで、レポートにはMicrosoft Excelグラフが含まれ、グラフ系列の値はレポート・スプレッドシートに書き込まれます。
- 「セルにコメントを追加」のセル・プリファレンスがアクティブになり、新規ワークブックで定義される新規の仮定、意思決定変数、予測セルにコメントが追加されます。詳細は、2ページのアクセシビリティのデフォルトのセル・プリファレンスに関する注意を参照してください。
- レポートの仮定グラフのデフォルト・サイズは、50%から100%に変更されます。
- 進行状況の一貫した読取りのために、OptQuest最適化の実行中は、シミュレーションの進行状況バーがCrystal Ballコントロール・パネルで非表示になります。
- 実行プリファレンスを設定する、または返す呼出しのために、新規アクセシビリティ・モードのプリファレンスをサポートする定数がCrystal Ball Developer Kitに追加されます。

アクセシビリティ・モードのアクティブ化

▶ アクセシビリティ・モードをアクティブ化するには:

1. Crystal Ballの「ようこそ」画面で「アクセシビリティ・オプションの有効化」、または「実行プリファレンス」ダイアログの「オプション」タブを選択します。
2. 「ようこそ」画面で「Crystal Ballの使用」を選択するか、「実行プリファレンス」ダイアログで「OK」をクリックします。



注:

アクセシビリティ・モードを非アクティブ化するには、「ようこそ」画面または「実行プリファレンス」ダイアログで、「アクセシビリティ・オプションの有効化」の選択を解除します。

アクセシビリティのデフォルトのセル・プリファレンスに関する注意

Crystal Ballのデフォルトのセル・プリファレンス設定は、色以外の手段による区別のアクセシビリティ標準を満たしていません。アクセシビリティ・モードでは、パターンと色の両方が使用されます。アクセシビリティ・モードをアクティブ化すると、前のセクションで簡条書きしたアクセシビリティのデフォルトが新規ワークブックに設定されます。

▶ アクセシビリティのデフォルトを既存のワークブックに適用するには:

1. アクセシビリティ・モードをアクティブ化します。

2. 1つ以上の既存のワークブックを開きます。
3. 「ファイル」、「新規」の順に選択し、新規ワークブックを作成します。
4. 新規ワークブックを選択した状態で、Crystal Ballリボンで「定義」、「セル・プリファレンス」の順に選択します。
「セル・プリファレンス」ダイアログが開き、アクセシビリティのデフォルト設定が選択されています。
5. 「適用先」をクリックします。
6. 「適用先」ダイアログで、「すべてのタブ」、「開いているすべてのワークブックと新規ワークブック」の順に選択します。
7. 「OK」をクリックします。
アクセシビリティのデフォルトは、開いているすべてのワークブックに適用されます。
8. ワークブックを保存して新規デフォルトを維持します。

Crystal Ballのアクセシビリティ機能

サブトピック

- [Crystal Ballユーザー・インタフェースでの\[Tab\]キーと矢印キーの使用](#)
- [ユーザー・インタフェースの問題点 - 大きいフォントと画面のちらつき](#)

この項では、他の製品と比較したCrystal Ball製品のアクセシビリティ機能について説明します。

Crystal Ballユーザー・インタフェースでの[Tab]キーと矢印キーの使用

サブトピック

- [マウスを使用せずにグラフにアクセス](#)
- [Crystal Ballコントロール・パネル上でのタブ移動](#)

Crystal Ballのメインのメニューバー、リボン、メニュー・コマンドには、キーボード同等操作でアクセスします。メニューを開いたら、[Tab]キーまたは下矢印キーで循環的に移動しながら(最後の項目からタブ移動すると最初の項目に戻る)、コマンドを強調表示します。[Shift]+[Tab]または上矢印を使用すると、逆方向にコマンドが強調表示されます。

Crystal Ballのダイアログでデフォルトのタブ順序は、左から右、上から下です。ダイアログのサブウィンドウにある最初の項目には[Tab]キーで移動できますが、追加の項目に移動するには矢印キーを使用する必要があります。たとえば「分布一覧」では、[Alt]+[B]を押すと基本的な6つの分布が表示され、そのうちの1つにフォーカスが置かれます。いずれかの矢印キーを使用すると、フォーカスは隣の分布に移ります。[Tab]を使用すると、ダイアログ下部の「OK」ボタンにフォーカスが移ります。

マウスを使用せずにグラフにアクセス

マウスを使用せずにCrystal Ball上を移動する方法の一般的な情報は、[3ページのCrystal Ballユーザー・インタフェースでの\[Tab\]キーと矢印キーの使用](#)を参照してください。そこで[Tab]キーとタブ順序について説明されている情報は、Crystal Ballのグラフでの操作にも適用されます。ただし、統計やパーセントイルなどのデータ表へのアクセス、同じウィンドウにおける複数のビュー(「分割ビュー」など)の間の移動、および複数グラフ間の移動には追加のルールが適用されます。

データ表間のタブ移動

[Tab]キーを使用してグラフのデータ・ビューを選択すると、セルが選択されます。[Tab]を押すたびに、その行の次のセルが選択されます。行の最後まで来ると、次の行の最初のセルが選択されます。表の最後まで移動したところで[Tab]を押すと、追加のビューか、次のコントロールに進みます。



注:

[Tab]を使用してデータ表にアクセスする際、表の最初のセルが常に選択されているとはかぎりません。[Tab]キーを数回使用した後で表から移動する場合には、[Shift]+[Tab]を何回か押して表に戻り、追加のデータを使用できるかどうか確認してください。

複数のビュー間のタブ移動

グラフに複数のビューが表示されている場合には、デフォルトのタブ順序が変わります。最初は、最上部の最初のラベルまたはコントロールが選択され、次に2番目のラベルまたはコントロールというように、グラフ上のすべてのラベルとコントロールが選択されるまで続きます。次に[Tab]キーを使用すると、最初のグラフ・ビュー(存在する場合)が選択され、次に2番目のグラフ・ビューというように、すべてのグラフ・ビューが選択されるまで続きます。そして、最初のデータ表が選択されます(存在する場合)。すべてのデータ表間を移動し終わると、グラフ・ビューの下にある最初のラベルまたはコントロールが選択され(存在する場合)、ナビゲーションは通常どおりに進みます。

散布図を除いて、[Ctrl]キーを押しながらビュー番号を押すと、タブ移動せずにグラフ・ビューを選択できます。たとえば、「分割ビュー」のグラフで、ある列に2つのグラフ・ビューが含まれ、2つ目の列に2つのデータ表が含まれていると仮定します。タブ順序では、1つ目のグラフ・ビューは1、2つ目のグラフ・ビューは2、1つ目のデータ表は3、2つ目のデータ表は4です。そして、[Ctrl]キーを押しながら[2]キーを押すと2つ目のグラフ・ビューが選択され、[Ctrl]キーを押しながら[3]キーを押すと1つ目のデータ表が選択されます。データ表の選択後は、[Tab]キーで通常どおりに行の中を移動します。

複数のグラフ間のタブ移動

複数のグラフを開いていて、そのどれも分割ビューではない場合、[Ctrl]キーとグラフ番号を押すとグラフを順に選択できます。[Ctrl]キーを押しながら[1]キーを押すと1つ目のグラフ、[Ctrl]キーを押しながら[2]キーを押すと2つ目のグラフ、のように選択されます。



注:

グラフを選択したら、「表示」メニューのコマンド(キーボード同等操作では[Alt]キーを押してからコマンドを選択)か、[13ページの表8「Crystal Ballの一般的なグラフ・メニューのキーボード同等操作」](#)にリストされているキーボード同等操作を使用して、使用可能なグラフ・ビューを順に移動します。

Crystal Ballコントロール・パネル上でのタブ移動

[Tab]キーを使用すると、Crystal Ballのコントロール・パネルでラベルとコントロールにアクセスできます。「詳細」ボタンを選択して[Enter]キーを押すと、シミュレーション統計のある拡張ビューがアクセス可能になります。これには、シミュレーションの実行速度と、シミュレーションに含まれていた仮定、意思決定変数、および予測の数が表示されます。

拡張ビューでは、[Ctrl]キーを押しながら[S]キーを押してシミュレーション統計の表にアクセスします。次に、[Tab]キーを押すか、または[Shift]キーを押しながら[Tab]キーを押して、そこにあるラベルおよび値の間を移動します。

ユーザー・インタフェースの問題点 - 大きいフォントと画面のちらつき

Crystal Ballの画面表示に関する問題点

- Microsoft Windowsで「大きいフォント」設定を使用している場合には、画面の解像度を1024x768ピクセルより大きく設定する必要があります。
- Crystal Ballのユーザーが仮定と予測のグラフをサイズ変更すると、画面のちらつきが激しくなることがあります。ちらつきをアクセシビリティ標準で必要とされている制限以下に抑えるには、Windowsの「コントロール パネル」を開き、次のように設定します。「画面」、「デザイン」、「効果」の順に選択し、「ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する」のチェック・ボックスの選択を解除します。



注:

この設定を確実に有効にするには、Crystal BallとMicrosoft Excelを再起動する必要があります。

Crystal Ballのキーボード同等操作

サブトピック

- [Crystal Ballの「定義」、「実行」、「分析」、「ツール」および「ヘルプ」コマンド](#)
- [分布一覧、相関、グラフなどに対するCrystal Ballコマンドとキーボード同等操作](#)

この項では、マウスを使用せずにCrystal Ballでタスクを実行する方法について説明します。

Crystal Ballの「定義」、「実行」、「分析」、「ツール」および「ヘルプ」コマンド

次の表に[Alt]とキーの組合せをリストします。これによってマウスを使用せずにCrystal Ballリボンの「定義」、「実行」、「分析」、「ツール」、「ヘルプ」コマンドを使用できます。

- [6ページの表1「Crystal Ballの「定義」コマンドのキーボード同等操作。」](#)、
- [6ページの表2「Crystal Ballの「実行」コマンドのキーボード同等操作。」](#)、
- [7ページの表3「Crystal Ballの「分析」コマンドのキーボード同等操作。」](#)、
- [8ページの表4「Crystal Ballの「ツール」コマンドのキーボード同等操作。」](#)、
- [8ページの表5「Crystal Ballの「ヘルプ」コマンドのキーボード同等操作。」](#)、

その他のコマンドとキーボード同等操作については、[9ページの分布一覧、相関、グラフなどに対するCrystal Ballコマンドとキーボード同等操作](#)を参照してください。



注:

オラクル社はキーボード同等操作が競合しないよう努めていますが、キーの組合せがMicrosoft Excelメニューのキーと同じ場合には、下矢印キーを使用して目的のコマンドにアクセスできます。

表1 Crystal Ballの「定義」コマンドのキーボード同等操作。

キー	アクション
[Alt]+[C], [A]	仮定の定義: 「仮定の定義」ダイアログを開き、Crystal Ballの仮定セルを定義します
[Alt]+[C], [D]	意思決定変数の定義: 「意思決定変数の定義」ダイアログを開き、Crystal Ballの意思決定変数セルを定義します
[Alt]+[C], [F]	予測の定義: 「予測の定義」ダイアログを開き、Crystal Ballの予測セルを定義します
[Alt]+[C], [N]	相関の定義: 「相関の定義」ダイアログを開き、Crystal Ball仮定の間の相関を定義します。
[Alt]+[C], [C]	コピー: Crystal Ballのセル定義を、指定したセルにコピーします
[Alt]+[C], [P]	貼付け: Crystal Ballのセル定義を、指定したセルに貼り付けます
[Alt]+[C], [E]	消去: Crystal Ballのセル定義を、指定したセルから除去します
[Alt]+[C], [L]	選択: 「選択」メニューを表示し、仮定、意思決定変数、予測セルを選択します
[Alt]+[C], [L], [A]	すべての仮定の選択: アクティブなワークシートで、すべての仮定セルを選択します
[Alt]+[C], [L], [D]	すべての意思決定の選択: アクティブなワークシートで、すべての意思決定変数セルを選択します
[Alt]+[C], [L], [F]	すべての予測の選択: アクティブなワークシートで、すべての予測セルを選択します
[Alt]+[C], [L], [S]	複数選択: 指定したCrystal Ballのデータ・セルを選択します
[Alt]+[C], [G]	固定: 指定したCrystal Ballのデータ・セルをシミュレーションから除外します
[Alt]+[C], [Y]	セル・プリファレンス: 「セル・プリファレンス」ダイアログを開き、Crystal Ballデータ・セルの表示その他のプロパティを変更します

表2 Crystal Ballの「実行」コマンドのキーボード同等操作。

キー	アクション
[Alt]+[C], [S]	開始: Crystal Ballシミュレーションの実行を開始し、また停止しているシミュレーションを再開します。
[Alt]+[C], [O]	停止: シミュレーションを停止します
[Alt]+[C], [R]	リセット: 生成されたシミュレーション・データをクリアします (Crystal Ballのデータ・セル定義は変わりません)
[Alt]+[C], [I]	ステップ: 一度に1つずつの試行でシミュレーションを実行します
[Alt]+[C], [J]	試行: Crystal Ballシミュレーションの試行の数を設定し、「実行プリファレンス」ダイアログの「試行」設定を編集します
[Alt]+[C], [W], [V]	結果の保存: 後で表示と分析に使用できるように、現在のシミュレーション結果を保存します

キー	アクション
[Alt]+[C], [W], [E]	結果の復元: 保存されている結果を復元して表示と分析に使用します
[Alt]+[C], [U]	実行プリファレンス: 「実行プリファレンス」ダイアログを開き、試行、サンプリング、その他の実行プリファレンスを設定します

表3 Crystal Ballの「分析」コマンドのキーボード同等操作

キー	アクション
[Alt]+[C], [V]	グラフの表示: グラフの一覧とグラフ・ウィンドウ管理コマンドを表示し、下矢印を使用して特定のグラフを選択します
[Alt]+[C], [V]	仮定グラフ: 「仮定グラフ」ダイアログを開き、仮定グラフを表示または管理します
[Alt]+[C], [V]	予測グラフ: 「予測グラフ」ダイアログを開き、予測グラフを表示または管理します
[Alt]+[C], [V]	感度グラフ: 「感度グラフ」ダイアログを開き、既存の傾向グラフを表示するか、新規の感度グラフを作成します
[Alt]+[C], [V]	重ねグラフ: 「重ねグラフ」ダイアログを開き、既存の重ねグラフを表示するか、新規の重ねグラフを作成します
[Alt]+[C], [V]	傾向グラフ: 「傾向グラフ」ダイアログを開き、既存の傾向グラフを表示するか、新規の傾向グラフを作成します
[Alt]+[C], [V]	散布図: 「散布図」ダイアログを開き、散布図を表示または管理します
[Alt]+[C], [V]	OptQuestグラフ: OptQuestを使用可能な場合に、最適化の後にOptQuestグラフを開きます
[Alt]+[C], [V]	Predictorグラフ: 時系列予測後にPredictorグラフを開きます
[Alt]+[C], [V], [N]	選択したセルを開く: 選択したセルの関連付けられたグラフを開きます
[Alt]+[C], [V], [C]	カスケード: 開いているグラフを見やすいように配置します
[Alt]+[C], [V], [L]	すべて閉じる: 開いているグラフをすべて閉じます
[Alt]+[C], [M]	レポートの作成: 事前定義済みのレポート・タイプとカスタム・レポート・タイプの一覧から選択し、シミュレーション結果のレポートを作成できます
[Alt]+[C], [M], [A]	仮定レポート: 仮定の結果のみのレポートを作成します
[Alt]+[C], [M], [D]	意思決定変数レポート: 意思決定変数の結果のみのレポートを作成します
[Alt]+[C], [M], [F]	予測レポート: 予測の結果のみのレポートを作成します
[Alt]+[C], [M], [R]	フル・レポート: すべてのシミュレーション結果のレポートを作成します
[Alt]+[C], [M], [I]	インデックス・レポート: Crystal Ballのデータ・セルの名前と場所のみのレポートを作成します
[Alt]+[C], [M], [O]	OptQuestレポート: OptQuestを使用可能な場合に、最適化の後に、選択したOptQuest結果のレポートを作成します
[Alt]+[C], [M]	Predictorレポート: 時系列予測後に、選択したPredictor結果のレポートを作成します

キー	アクション
[Alt]+[C], [M], [C]	カスタム・レポート: 選択したシミュレーション結果のみを含むレポートを作成します
[Alt]+[C], [M], [P]	レポート・プリファレンス: 様々なレポート・オプションを設定します
[Alt]+[C], [X]	データの抽出: 追加の分析のために、選択したシミュレーション・データをワークシートにコピーします

表4 Crystal Ballの「ツール」コマンドのキーボード同等操作

キー	アクション
[Alt]+[C], [Q]	OptQuest: 結果を最適化するOptQuestを起動します
[Alt]+[C], [T], [P]	Predictor: 時系列を分析するPredictorを起動します
[Alt]+[C], [T]	その他のツール: 分析とグラフ作成に使用するCrystal Ballの汎用ツールと統合ツールを表示します
[Alt]+[C], [T], [F]	バッチ・フィット・ツール: 選択した連続確率分布を自動的に複数のデータ系列に適合させます
[Alt]+[C], [T], [B]	ブートストラップ・ツール: 予測統計の信頼性と精度を処理します
[Alt]+[C], [T], [A]	データ分析ツール: スプレッドシートからCrystal Ballの予測グラフに直接データをインポートし、さらに分析します
[Alt]+[C], [T], [D]	意思決定表ツール: シミュレーション・モデルで他の意思決定の影響を評価します
[Alt]+[C], [T], [S]	シナリオ分析ツール: 特定の出力を作成した入力を表示します
[Alt]+[C], [T], [T]	トルネード・グラフ・ツール: ターゲット出力に対する各モデル変数の影響を個別に分析します
[Alt]+[C], [T], [2]	2次元シミュレーション・ツール: 2次元シミュレーションを使用して、不確実性と可変性を個別に処理します
[Alt]+[C], [T], [M]	使用可能な場合に、Smart Viewを使用してCrystal BallでEnterprise Performance Managementデータに対するシミュレーションを実行できます
[Alt]+[C], [T], [E]	Strategic Finance設定ツール: 使用可能な場合に、Strategic Finance設定ウィザードを開き、Strategic Financeデータに対してCrystal Ballを実行できるワークブックを設定します
[Alt]+[C], [T], [R]	実行モードの比較ツール: 「通常モード」と「最高速モード」で、シミュレーションの実行時間を比較します(使用可能な場合)

表5 Crystal Ballの「ヘルプ」コマンドのキーボード同等操作

キー	アクション
[Alt]+[C], [H]	ヘルプ: Crystal Ballのオンライン・ヘルプを表示します
[Alt]+[C], [Y][2]	リソース: Crystal Ballのテクニカル・サポート、ダウンロード用のOracle OTN、Crystal BallとEPMのドキュメント、サンプル、

キー	アクション
	「ようこそ」画面、「ライセンス」ダイアログのメニューを表示します
[Alt]+[C], [Y][2], [T]	テクニカル・サポート: テクニカル・サポートへのリンクがあるCrystal Ball Webページを表示します
[Alt]+[C], [Y][2], [C]	Crystal Ballドキュメント: Crystal Ballで使用できるオンライン・ドキュメントを表示します
[Alt]+[C], [Y][2], [D]	Oracle EPMドキュメント: Crystal Ballを含め、OTNでOracle Enterprise Performance Managementドキュメントの索引を表示します
[Alt]+[C], [Y][2], [E]	サンプル・ガイド: 選択内容をCrystal Ballにロードできるサンプル・モデルのリストを表示します
[Alt]+[C], [Y][2], [W]	「ようこそ」画面: 「ようこそ」画面を表示します; シックス・シグマなどの品質管理プログラムの工程能力機能を自動的にアクティブ化したり、石油およびガス産業で頻繁に使用されるパーセントイル・プリファレンスを設定できます。
[Alt]+[C], [Y][2], [L]	ライセンス: 「ライセンスのアクティブ化」ダイアログを表示し、Crystal Ballのシリアル番号を入力してライセンスをアクティブ化します
[Alt]+[C], [B]	バージョン情報: 現在のリリースのCrystal Ballに関するバージョン、およびユーザー名などのその他の情報を表示します

分布一覧、相関、グラフなどに対するCrystal Ballコマンドとキーボード同等操作

サブトピック

- 「分布一覧」のメニューとキーボード同等操作
- 「相関の定義」のキーボード同等操作
- グラフのキーボード同等操作
- ラベルまたは[Alt]キー操作のないコントロールのキー

この項の表では、5ページのCrystal Ballの「定義」、「実行」、「分析」、「ツール」および「ヘルプ」コマンドに含まれていない機能に適用されるキーボード同等操作をリストします。

「分布一覧」のメニューとキーボード同等操作



注:

「仮定の定義」アイコンの上半分をクリックした場合、または仮定がすでに定義されている場合に、「分布一覧」が開きます。アイコンの下半分をクリックすると、「分布一覧」内のアクティブなカテゴリに応じて、「すべて」、「基本」または「お気に入り」分布のリストが開きます。

「分布一覧」のメニュー

「分布一覧」には次のメニューがあります:

- 「編集」メニュー - 分布のコピー、貼付け、変更、削除、印刷が可能です。
- 「表示」メニュー - 「分布一覧」における分布の表示方法と、「説明」ペインの表示/非表示を決定します。
- 「カテゴリ」メニュー - 分布のカテゴリの作成、変更、削除、並替え、共有が可能です。
- 「ヘルプ」メニュー - 「分布一覧」またはアクティブな分布のヘルプを表示します。

「分布一覧」のキーボード同等操作

キーボードを使用して、「分布一覧」で分布を選択できます。

▶ その手順は次のとおりです:

1. 「定義」、「仮定の定義」の順に選択するか、「仮定の定義」ボタンをクリックして「分布一覧」を開きます。
2. ターゲット分布の名前の最初の文字、たとえば**normal**の場合は**n**を入力します。

複数の分布が同じ文字で始まる場合には、押し続けると分布が順に表示されます。

3. ターゲット分布を強調表示しているときは、**[Alt]**キーを押しながら**[O]**キー(「OK」を表す)を押して、「仮定の定義」ダイアログを開きます。

または、分布を適合させる場合には**[Alt]**キーを押しながら**[F]**キーを、選択を取り消してダイアログを閉じる場合には**[Alt]**キーを押しながら**[C]**キーを押します。

「分布一覧」の分布ペインを選択するには、**[Ctrl]**キーを押しながら**[D]**キーを押します。

▶ キーボード同等操作をカスタム・カテゴリに適用するには:

1. Crystal Ballの「分布一覧」を開きます。
2. カテゴリ名を編集します:

新規カテゴリの場合は、「カテゴリ」、「新規」の順に選択します。「名前」テキスト・ボックスで、カテゴリ名の文字の前にアンパサンド(&)を入力します。この文字がキーボード同等操作になります。「OK」をクリックして保存します。

既存のカテゴリの場合は、「カテゴリ」、「プロパティ」の順に選択して、既存の名前にアンパサンドを追加し、「OK」をクリックして保存します。

カテゴリごとに一意のキーボード同等操作を使用する必要があります。デフォルト・カテゴリのキーボード同等操作は、「基本」カテゴリでは**[Alt]**キーを押しながら**[B]**キーを押し、「すべて」では**[Alt]**キーを押しながら**[A]**キーを押し、「お気に入り」では**[Alt]**キーを押しながら**[I]**キーを押します。

「関連の定義」のキーボード同等操作

この項の次の表に、関連の定義およびMicrosoft Excelでのスプレッドシートへのリンクに使用されるキーを示します: [11ページの表6「Crystal Ballの「関連の定義」ダイアログのキーボード同等操作」](#),および [12ページの表7「Crystal Ballの「スプレッドシートにリンク」ダイアログのキーボード同等操作」](#)。

表6 Crystal Ballの「相関の定義」ダイアログのキーボード同等操作

キー	コマンド・アクション
[Alt]+[E], [C]	「編集」、「グラフのコピー」の順: 相関グラフが表示されている場合、そのグラフをクリップボードにコピーします
[Alt]+[E], [L]	リスト・ビューで「編集」、「リストのコピー」の順: 仮定リストをクリップボードにコピーします
[Alt]+[E], [M]	マトリックス・ビューで「編集」、「マトリックスのコピー」の順: 相関マトリックスをクリップボードにコピーします
[Alt]+[E], [S]	「編集」、「ページ設定」の順: 印刷前のページ設定用の「ページ設定」ダイアログを表示します
[Alt]+[E], [R]	「編集」、「印刷プレビュー」の順: 印刷内容のプレビューを表示します
[Alt]+[E], [P]	「編集」、「印刷」の順: 「印刷」ダイアログが表示され、プリンタを選択したり、表示された情報を印刷できます
[Alt]+[M], [L]	マトリックス・ビューで「マトリックス」、下三角マトリックス: マトリックスの左下隅に相関マトリックス値を表示します
[Alt]+[M], [U]	マトリックス・ビューで「マトリックス」、上三角マトリックス: マトリックスの右上隅に相関マトリックス値を表示します
[Alt]+[M], [C]	マトリックス・ビューで「マトリックス」、「マトリックスの整合性のチェック」の順: 選択された場合、「相関の定義」ダイアログで「OK」ボタンをクリックするとマトリックス内の仮定間の整合性がチェックされます。選択されていない場合、整合性は自動的にチェックされません
[Alt]+[M], [R]	マトリックス・ビューで「マトリックス」、「マトリックスの除去」の順: 現在のマトリックスおよびその仮定間のすべての相関を除去します
[Alt]+[M], [O]	マトリックス・ビューで「マトリックス」、「散布図を開く」の順: 現在の相関マトリックスに対する一連の散布図を表示します
[Alt]+[V], [L]	「表示」、「リスト・ビュー」の順: 仮定の相関をリスト形式で表示します
[Alt]+[V], [M]	「表示」、「マトリックス・ビュー」の順: 仮定の相関を正方マトリックスで表示します
[Alt]+[V], [S]	「表示」、「編集済セルを太字で表示」の順: 手動で編集した相関値を太字を使用して表示します
[Alt]+[V], [H]	「表示」、「相関グラフの表示」の順: 選択された場合、「相関の定義」ダイアログに現在の仮定ペアの相関の散布図が表示されます
[Alt]+[H], [C]	「ヘルプ」、「相関ヘルプ」の順: 相関の作成方法とその各種表示方法を説明した関連トピックへのリンクを含む相関ヘルプのメイン・ページを表示します
[Alt]+[W]	リスト・ビューでは、コマンドは仮定<list box>の相関を表示です。マトリックス・ビューでは、コマンドはマトリックス<list box>の相関を表示です。これらのコマンドによって、「相関の定義」ダイアログに相関を表示する対象の仮定またはマトリックスが決まります。

キー	コマンド・アクション
[Alt]+[K]	マトリックス・ビューで「スプレッドシートにリンク」: 選択された場合、現在のマトリックスをスプレッドシート内の相関値のセットにリンクします
[Alt]+[F]	相関グラフの係数スライダを選択します(表示されている場合)
[Alt]+[A]	「仮定の追加」: 相関用の仮定を選択する「仮定の選択」ダイアログを表示します
[Alt]+[R]	「除去」: 選択した仮定を現在のマトリックスから削除し、マトリックスのすべての相関も除去します。
[Alt]+[L]	「計算」: 2つのデータ範囲の相関を計算できます。

表7 Crystal Ballの「スプレッドシートにリンク」ダイアログのキーボード同等操作

キー	コマンド・アクション
[Alt]+[L]	「マトリックスの場所」: スプレッドシート内のリンクされた相関値の場所を指定します
[Alt]+[M]	「名前」: マトリックスのオプションの名前
[Alt]+[T]	「下三角」: 相関値の表示を正方マトリックスの左下隅に設定します
[Alt]+[U]	「上三角」: 相関値の表示を正方マトリックスの右上隅に設定します
[Alt]+[F]	「リストから選択」: 仮定がリストから選択されることを示します
[Alt]+[A]	「マトリックスの隣り」: 仮定がマトリックスの隣に配置されることを示します
[Alt]+[N]	「名前はマトリックスの隣り」: 相関する仮定名が、マトリックスの隣(左または上)に位置するように指定します。
[Alt]+[S]	「セルの選択」: 仮定の場所を選択できます
[Alt]+[R]	「フォーマット・マトリックス」: 自己相関の項を網掛けにしたり、ワークシート内のマトリックス値を含むセルに枠を追加します
[Alt]+[D]	仮定名の追加: マトリックスに隣接名を追加します

グラフのキーボード同等操作

サブトピック

- [一般的なグラフのキーボード同等操作](#)
- [グラフ・プリファレンスのキーボード同等操作](#)
- [グラフ別のキーボード同等操作](#)

この項の表では、Microsoft Excel内の大部分のグラフで使用されるキーボード同等操作、グラフ・プリファレンスで使用されるキー、グラフ別のキーをリストします。

一般的なグラフのキーボード同等操作

13ページの表8には、「分析」メニューまたはグループを通じてアクセスできるCrystal Ballの大部分のグラフ(すべてではない)に適用されるメニュー・コマンドとキーボード同等操作をリストしています。グラフ・プリファレンスのキーの詳細は、14ページのグラフ・プリファレンスのキーボード同等操作を参照してください。特定のグラフで使用されるキーの詳細は、14ページのグラフ別のキーボード同等操作を参照してください。

表8 Crystal Ballの一般的なグラフ・メニューのキーボード同等操作

キー	コマンド・アクション
[Alt]+[Tab], Oracle Crystal Ball	Crystal Ballを前面に移動します; Microsoft Windowsでアプリケーションを切り替えるショートカットです
[Alt]+[E], [C]	「編集」、「グラフのコピー」の順: Crystal Ballのグラフをクリップボードにコピーします
[Alt]+[E], [U]	「編集」、「ページ設定」の順: マージン、用紙サイズ、向き、その他の印刷レイアウト情報を定義します
[Alt]+[E], [V]	「編集」、「印刷プレビュー」の順: アクティブなグラフを、現在の「ページ設定」の設定で印刷されるとおりに表示します
[Alt]+[E], [P]	「編集」、「印刷」の順: 指定したプリンタまたはファイルに現在のグラフを出力します
[Alt]+[V], [F]	「表示」、「度数」の順: 特定の期間(分割数)に出現する値の数すなわち度数を表示するように、現在のグラフを設定します
[Alt]+[V], [C]	「表示」、「累積」の順: 指定された数値以下の値の数または比率(パーセント)を表示するように、現在のグラフを設定します
[Alt]+[V], [R]	「表示」、「逆累積」の順: 指定された数値以上の値の数または比率(パーセント)を表示するように、現在のグラフを設定します
[Alt]+[V], [S]	「表示」、「統計量」の順: グラフ化された値の一連の説明的な統計を表示するように、現在のグラフを設定します
[Alt]+[V], [P]	「表示」、「パーセンタイル」の順: パーセンタイルを10%ずつの増分を表示するように、現在のグラフを設定します
[Alt]+[V], [G]	「表示」、「適合度」の順: 使用可能な場合に、フィルタされているすべての分布について適合度統計量を表示するように、現在のグラフを設定します
[Alt]+[V], [A]	「表示」、「工程能力指標」の順: 予測に対して設定された規格限界に基づいて一連の工程能力指標を表示するように、現在の予測グラフを設定します
[Alt]+[V], [L]	「表示」、「分割ビュー」の順: 関連付けられたグラフに加えて統計などのデータを表示するように、現在のグラフを設定します
[Alt]+[P], [C]	「プリファレンス」、「グラフ・プリファレンス」の順: 「グラフ・プリファレンス」ダイアログを開き、グラフの表示設定を変更します

グラフ・プリファレンスのキーボード同等操作

グラフ領域をダブルクリックすると、「グラフ・プリファレンス」ダイアログが開きます。

14ページの表9「グラフ・プリファレンスのキーボード同等操作」は、「グラフ・プリファレンス」ダイアログに用意されている設定の切替えに使用できるキーの組合せをリストしています。これらのコマンドのほとんどは主要な分布で機能します(仮定の理論的確率分布、予測グラフおよび重ねグラフに生成された値)。大部分のグラフで使用される一般的なキーの詳細は、13ページの一般的なグラフのキーボード同等操作を参照してください。特定のグラフで使用されるキーの詳細は、14ページのグラフ別のキーボード同等操作を参照してください。

表9 グラフ・プリファレンスのキーボード同等操作

キー	アクション
[Ctrl]+[D]	「表示」メニュー、「プリファレンス」、グラフ名、グラフ名ウィンドウ、「表示」の順: 「度数」、「累積度数」、「逆累積度数」(仮定グラフおよび予測グラフ)のグラフ表示を順に選択します
[Ctrl]+[B], [Ctrl]+[G]	「プリファレンス」、「グラフ」、「一般」、「密度」の順: 分割数またはグループ区間を順に選択し、グラフの作成に使用するデータ分割数を調整します
[Ctrl]+[L]	「プリファレンス」、「グラフ」、「一般」、「グリッド線」の順: グリッド線設定を、「なし」、「水平」、「垂直」、「両方」の順に選択します
[Ctrl]+[T]	「プリファレンス」、「グラフ」、「グラフ・タイプ」、「タイプ」の順: グラフ・タイプを順に選択します; 感度グラフの場合は「面」、「折れ線」、「列」のいずれか、「寄与率」ビューの場合は「棒(実数値)」、「棒(絶対値)」、「円」のいずれかです
[Ctrl]+[W]	「プリファレンス」、「グラフ」、「一般」、「3Dグラフ」の順: 2次元と3次元のグラフ表示を切り替えます
[Ctrl]+[M]	「プリファレンス」、「グラフ」、「グラフ・タイプ」、「補助線」の順: 中心傾向の補助線を、「なし」、「平均値」、「中央値」、「最頻値(モード)」から順に選択します(感度グラフと傾向グラフを除く)
[Ctrl]+[N]	「プリファレンス」、「グラフ」、「一般」、「凡例」の順: 凡例の表示と非表示を切り替えます
[Ctrl]+[P]	「プリファレンス」、「グラフ」、「グラフ・タイプ」、「補助線」、「パーセンタイル」の順: パーセンタイル補助線を、「なし」、10%、20%...90%から順に選択します
[Ctrl]+[Space]	「表示」メニュー、「プリファレンス」、グラフ名、グラフ名ウィンドウ、「表示」の順: Microsoft Excelが編集モードではないときのウィンドウ表示を順に選択します; 「グラフ」、「統計量」、「パーセンタイル」、「適合度」(傾向グラフを除き、分布の適合を選択している場合)、「工程能力指標」(工程能力の機能がアクティブ化されている場合)があります

グラフ別のキーボード同等操作

次の表には、グラフ別のキーボード同等操作をリストしています。大部分のグラフで使用される一般的なキーの詳細は、13ページの一般的なグラフのキーボード同等操作を参照してください。グラフ・プリファレンスのキーの詳細は、14ページのグラフ・プリファレンスのキーボード同等操作を参照してください。

表:

- 15ページの表10「仮定グラフ固有のグラフ・メニューのキーボード同等操作」,
- 15ページの表11「予測グラフ固有のグラフ・メニューのキーボード同等操作」,
- 15ページの表12「重ねグラフ固有のグラフ・メニューのキーボード同等操作」,
- 16ページの表13「感度グラフ固有のグラフ・メニューのキーボード同等操作」,
- 17ページの表15「散布図固有のグラフ・メニューのキーボード同等操作」,
- 17ページの表15「散布図固有のグラフ・メニューのキーボード同等操作」,

表10 仮定グラフ固有のグラフ・メニューのキーボード同等操作

キー	アクション
[Alt]+[E], [A]	「編集」、「分布一覧に追加」の順: アクティブな仮定を、指定されたカテゴリで分布一覧に追加します
[Alt]+[M], [C]	「パラメータ」、セル参照の表示: パラメータのテキスト・ボックスにセル参照を入力するとき、値のかわりにセル参照を表示します
[Alt]+[P], [A]	「プリファレンス」、「仮定」の順: 「仮定プリファレンス」ダイアログを開き、ビューの選択とグラフ表示の制御を行います
[Alt]+[H], [A]	「ヘルプ」、「仮定ヘルプ」の順: 仮定グラフに関するオンライン・ヘルプを表示します

表11 予測グラフ固有のグラフ・メニューのキーボード同等操作

キー	アクション
[Alt]+[F], [S]	「予測」、「感度グラフを開く」の順: アクティブな予測の感度グラフを作成または表示します
[Alt]+[F], [F]	「予測」、「確率分布を適合」の順: デフォルトまたは現在選択されている分布と順位付け手法を使用して、アクティブな予測グラフに分布を適合させます
[Alt]+[P], [F]	「プリファレンス」、「予測」の順: 「予測プリファレンス」ダイアログを開き、グラフ表示、分布の適合指定、その他を制御します
[Alt]+[H], [F]	「ヘルプ」、「予測ヘルプ」の順: 予測グラフに関するオンライン・ヘルプを表示します

表12 重ねグラフ固有のグラフ・メニューのキーボード同等操作

キー	アクション
[Alt]+[O], [C]	「重ね」、「予測の選択」の順: 「予測の選択」ダイアログを表示し、アクティブな重ねグラフで予測を追加または除去します
[Alt]+[O], [R]	「重ね」、「すべて除去」の順: アクティブな重ねグラフからすべての予測を除去します
[Alt]+[O], [F]	「重ね」、「確率分布を適合」の順: デフォルトまたは現在選択されている分布と順位付け手法を使用して、アクティブな重ねグラフですべての予測に分布を適合させます

キー	アクション
[Alt]+[P], [O]	「プリファレンス」、「重ね」の順: 「重ねプリファレンス」ダイアログを開き、グラフ表示と分布の適合指定を制御します
[Alt]+[H], [O]	「ヘルプ」、「重ねグラフ・ヘルプ」の順: 重ねグラフに関するオンライン・ヘルプを表示します

表13 感度グラフ固有のグラフ・メニューのキーボード同等操作

キー	アクション
[Alt]+[V], [C]	「表示」、「寄与率グラフ」の順: 分布ごとの寄与率をパーセントで表した感度グラフを表示します
[Alt]+[V], [R]	「表示」、「順位相関グラフ」の順: 予測に対する影響を仮定の順位相関で表した感度グラフを表示します
[Alt]+[V], [S]	「表示」、「感度データ」の順: 仮定ごとに、寄与率と順位相関の感度測定を表示します
[Alt]+[S], [T]	「感度」、「対象予測の選択」の順: 「予測の選択」ダイアログを開き、感度を分析する予測を選択します
[Alt]+[S], [A]	「感度」、「すべての仮定」の順: 感度グラフを作成するとき、すべての仮定を使用します
[Alt]+[S], [C]	「感度」、「仮定の選択」の順: 「仮定の選択」ダイアログを開き、感度グラフについて仮定を1つ以上選択します
[Alt]+[S], [G]	「感度」、「仮定のグループ化」の順: 「仮定のグループ化」ダイアログを開き、感度グラフについて仮定のグループを作成および変更します
[Alt]+[S], [S]	「感度」、「散布図を開く」の順: 現在の対象予測と仮定を使用して散布図を開きます
[Alt]+[P], [S]	「プリファレンス」、「感度」の順: 「感度プリファレンス」ダイアログを開き、ビューの選択、グラフ表示の制御、その他を実行します
[Alt]+[H], [S]	「ヘルプ」、「感度ヘルプ」の順: 感度グラフに関するオンライン・ヘルプを表示します

表14 傾向グラフ固有のグラフ・メニューのキーボード同等操作

キー	アクション
[Alt]+[V], [M]	「表示」、「中央値中心」の順: 各予測値の中央値を中心に、信頼度の帯を表示します
[Alt]+[V], [C]	「表示」、「累積」の順: 予測範囲の下端に固定して信頼度の帯を表示し、予測値が指定の値以下になる信頼度を示します
[Alt]+[V], [R]	「表示」、「逆累積」の順: 予測範囲の上端に固定して信頼度の帯を表示し、予測値が指定の値以上になる信頼度を示します
[Alt]+[T], [F]	「傾向」、「予測の選択」の順: 「予測の選択」ダイアログを開き、傾向グラフで使用する予測を選択します
[Alt]+[T], [R]	「傾向」、「すべて除去」の順: アクティブな傾向グラフからすべての予測を除去します

キー	アクション
[Alt]+[P], [T]	「プリファレンス」、「傾向」の順: 「傾向プリファレンス」ダイアログを開き、ビューの選択とグラフ表示の制御を行います
[Alt]+[H], [T]	「ヘルプ」、「傾向ヘルプ」の順: 傾向グラフに関するオンライン・ヘルプを表示します

表15 散布図固有のグラフ・メニューのキーボード同等操作

キー	アクション
[Alt]+[V], [S]	「表示」、「散布ビュー(1xN)」の順: 対象の仮定または予測に対し、選択した仮定または予測(あるいはその両方)をプロットします
[Alt]+[V], [M]	「表示」、「マトリックス・ビュー(NxN)」の順: 選択した仮定または予測(あるいはその両方)を相互にプロットします
[Alt]+[S], [D]	「散布」、「データの選択」の順: 「データの選択」ダイアログを開き、散布図で使用する仮定と予測を選択します
[Alt]+[S], [R]	「散布」、「すべて除去」の順: アクティブな散布図からすべての仮定と予測を除去します
[Alt]+[P], [S]	「プリファレンス」、「散布」の順: 「散布プリファレンス」ダイアログを開き、ビューの選択とグラフ表示の制御を行います
[Alt]+[H], [T]	「ヘルプ」、「散布ヘルプ」の順: 散布図に関するオンライン・ヘルプを表示します

ラベルまたは[Alt]キー操作のないコントロールのキー

17ページの表16には、ラベルがないか、[Alt]キーを押したときに強調表示されるキーボード同等操作がないコントロールのキーボード同等操作をリストしています。

表16 ラベルまたは[Alt]キー操作のないコントロールのキーボード同等操作

キー	アクション
[Ctrl]+[+]	「仮定の定義」または「予測の定義」ダイアログで「詳細」ボタンを押すのと同等の操作: ダイアログで、基本と拡張(またはプリファレンス)のすべての設定を表示します
[Ctrl]+[-] (ハイフンまたはダッシュ)	「仮定の定義」または「予測の定義」ダイアログで「縮小」ボタンを押すのと同等の操作: 基本設定を表示しているときに、拡張設定(またはプリファレンス)を非表示にします
[Alt]+[[]]	最小切捨てグラバー(テキスト・ボックス)、「仮定の定義」ダイアログの順: 値の範囲の下端で分布を切り捨て、「最小」テキスト・ボックスの値を設定します
[Alt]+[)]]	最大切捨てグラバー(テキスト・ボックス)、「仮定の定義」ダイアログの順: 値の範囲の上端で分布を切り捨て、「最大」テキスト・ボックスの値を設定します
[Ctrl]+[↑], [Ctrl]+[↓]	グラフの「系列」リスト・ボックスなど、類似のリスト・ボックス: リスト・ボックスを上下に移動し、リストから系列を選択します
[Alt]+[↑], [Alt]+[↓]	「関連の定義」ダイアログ、「マトリックス」ビューの順: リンクされたマトリックスの行を並べ替えます。

キー	アクション
[Ctrl]+[N]	「手法」パネル、Predictorウィザードの順: 「非季節性手法」グループを選択、または選択解除します
[Ctrl]+[S]	「手法」パネル、Predictorウィザードの順: 「季節性手法」グループを選択、または選択解除します
[Ctrl]+[A]	「手法」パネル、Predictorウィザードの順: ARIMAグループを選択、または選択解除します
[Ctrl]+[M]	「手法」パネル、Predictorウィザードの順: 「多重線形回帰」グループを選択、または選択解除します
[Ctrl]+[P]	「Predictorの結果」ウィンドウのグラフ: 信頼区間の線の表示と非表示を切り替えます
[Ctrl]+[W], [Ctrl]+[Shift]+[W]	Predictorのデータ・スクリーニング・ウィンドウおよび結果ウィンドウにおける警告の脚注: スクリーン・リーダーを有効にし、警告の脚注が存在する場合に読み上げます
[Ctrl]+[Z]	Predictorグラフのズーム・コントロール: Predictorグラフの表示を拡大および縮小するズーム・コントロールをアクティブ化/非アクティブ化します

OptQuestのキーボード同等操作

サブトピック

- [OptQuestウィザードのキーボード・コマンド同等操作](#)
- [「OptQuestの結果」ウィンドウのメニュー](#)
- [OptQuestの「コントロール・パネル」のキーボード・ショートカット](#)

この項では、OptQuestコマンドのキーボード同等操作など、OptQuestのアクセシビリティ機能について説明します。Oracle Crystal Ball Decision Optimizerの一般的なアクセシビリティ機能の詳細は、このアクセシビリティ・ガイドの前の項を参照してください。

OptQuestウィザードのキーボード・コマンド同等操作

OptQuestウィザードの各パネルには、設定の実行、ウィザード・パネル間の移動、最適化の実行、OptQuestの終了、オンライン・ヘルプの参照、その他パネルに固有の操作の実行などに必要なコントロールがあります。各パネル、「OptQuestの結果」ビュー、またはOptQuestの「コントロール・パネル」で「Alt」をクリックすると、各メニューまたはボタン・ラベルでショートカット・キーが強調表示されます。[19ページの表17「OptQuestウィザードのキーボード・ショートカット - 「目的関数」、「意思決定変数」、「制約条件」の各パネル」](#)には、「目的関数」、「意思決定変数」、「制約条件」の各パネルにおけるOptQuestウィザードのキーボード同等操作(キー)がリストされています。[19ページの表18「OptQuestウィザードのキーボード・ショートカット - 「オプション」パネルの設定」](#)には、「オプション」パネルにおける設定のキーボード同等操作がリストされています。「オプション」パネルのボタンは、[19ページの表17](#)に掲載されています。



注:

OptQuestウィザードでは、[Enter]キーを使用して目的、要件、制約の行を編集モードに切り替え、個々の要素にアクセスして編集できます。

表17 OptQuestウィザードのキーボード・ショートカット - 「目的関数」、「意思決定変数」、「制約条件」の各パネル

コマンド	パネル	キーストローク
コメントの追加	制約条件	[Alt]+[C]
制約条件の追加	目的関数(単純入力)	[Alt]+[O]
目的関数の追加	目的関数	[Alt]+[O]
要件の追加	目的関数	[Alt]+[R],[A]
高度な入力	制約条件	[Alt]+[A]
戻る	「ようこそ」を除くすべて	[Alt]+[B]
閉じる	すべて	[Alt]+[C]
「制約条件」グループ	制約条件	[Alt]+[S]
制約条件の追加	制約条件	[Alt]+[O]
削除	目的関数、制約条件	[Alt]+[D]
効率的フロンティア	目的関数、制約条件	[Alt]+[E]
除外	目的関数、制約条件	[Alt]+[X]
ヘルプ	すべて	[Alt]+[H]
インポート	目的関数	[Alt]+[I]
参照の挿入	制約条件(高度な入力)	[Alt]+[R]
変数の挿入	制約条件(高度な入力)	[Alt]+[V]
次	「オプション」を除くすべて	[Alt]+[N]
「目的関数」グループ	目的関数	[Alt]+[J]
プライマリ・ワークブック	目的関数	[Alt]+[P]
「要件」グループ	目的関数	[Alt]+[Q]
実行	「ようこそ」を除くすべて	[Alt]+[R]
セルの場所を表示	意思決定変数	[Alt]+[S]

19ページの表18「OptQuestウィザードのキーボード・ショートカット - 「オプション」パネルの設定」には、「オプション」パネルの設定がリストされています。「オプション」パネルのボタンについて参照してください。

表18 OptQuestウィザードのキーボード・ショートカット - 「オプション」パネルの設定

コマンド	キーストローク
「最適化コントロール」設定	n/a
___シミュレーションを実行	[Alt]+[U]
___分間実行	[Alt]+[N]
実行プリファレンス	[Alt]+[P]
「最適化タイプ」設定	n/a
シミュレーションあり(確率論的)	[Alt]+[W]
シミュレーションなし(決定論的)	[Alt]+[T]
「実行中」設定	n/a
定義されたグラフ・ウィンドウを表示	[Alt]+[S]

コマンド	キーストローク
対象予測ウィンドウのみ表示	[Alt]+[F]
新しい最適解のみ更新	[Alt]+[D]
「意思決定変数セル」設定	n/a
元の値に設定	[Alt]+[L]
最適解に自動的に設定	[Alt]+[A]
「詳細設定オプション」ボタン	[Alt]+[O]

「OptQuestの結果」ウィンドウのメニュー

「OptQuestの結果」ウィンドウのメニューとその操作を次にリストします。20ページの表20「OptQuest結果ウィンドウのキーボード・ショートカット」には、各メニューのコマンドのショートカットが示されています。

表19 「OptQuestの結果」ウィンドウのメニュー

メニュー	アクション
編集	解をスプレッドシートにコピー、グラフをコピー、印刷のページを設定、印刷
ビュー	「最適解」ビュー(効率的フロンティア付き)と「解の分析」ビューを切替え
分析	レポートを作成し、データを抽出
プリファレンス	すべての解を表示
ヘルプ	「最適解」、「解の分析」、「効率的フロンティア」の各ウィンドウのヘルプを表示

20ページの表20「OptQuest結果ウィンドウのキーボード・ショートカット」には、OptQuest結果ウィンドウで、マウスを使用せずにリストのメニュー・コマンドを実行できる[Alt]キーとの組合せがリストされています。コマンドは、メニュー別に、そのメニューでの表示順に示してあります。すべてのコマンドをどのビューでも使用できるわけではありません。

表20 OptQuest結果ウィンドウのキーボード・ショートカット

メニュー	コマンド	キーストローク
編集	スプレッドシートに最適解をコピー	[Alt]+[E], [C]
編集	グラフのコピー	[Alt]+[E], [O]
編集	ページ設定	[Alt]+[E], [G]
編集	印刷プレビュー	[Alt]+[E], [R]
編集	印刷	[Alt]+[E], [P]
ビュー	最適解	[Alt]+[V], [B]
ビュー	解の分析	[Alt]+[V], [S]
分析	レポートの作成	[Alt]+[A], [R]
分析	データの抽出	[Alt]+[A], [D]
プリファレンス	すべての解の表示	[Alt]+[P], [S]
ヘルプ	最適解ヘルプ	[Alt]+[H], [B]
ヘルプ	解の分析ヘルプ	[Alt]+[H], [S]

メニュー	コマンド	キーストローク
ヘルプ	効率的フロンティア・ヘルプ	[Alt]+[H], [E]

OptQuestの「コントロール・パネル」のキーボード・ショートカット

OptQuestの「コントロール・パネル」は、OptQuestの実行(起動、停止、続行、リセット)を制御します。「実行プリファレンス」ボタンをクリックして、最適化の最大時間またはシミュレーションの最大回数も設定できます。

「コントロール・パネル」には、OptQuestとCrystal Ballのパフォーマンスをさらに制御するメニューとして「実行」、「分析」、「ヘルプ」の3つがあります。次の [21ページの表21「OptQuestの「コントロール・パネル」のキーボード・ショートカット」](#)には、「コントロール・パネル」の各メニューのコマンドとショートカット・キーがリストされています。

表21 OptQuestの「コントロール・パネル」のキーボード・ショートカット

メニュー	コマンド	キーストローク
実行	最適化の続行	[Alt]+[R], [C]
実行	最適化の停止	[Alt]+[R], [S]
実行	最適化のリセット	[Alt]+[R], [R]
実行	OptQuest	[Alt]+[R], [O]
実行	Predictor	[Alt]+[R], [P]
実行	ツール	[Alt]+[R], [T]
実行	結果の保存(Crystal Ball)	[Alt]+[R], [V]
実行	結果の復元(Crystal Ball)	[Alt]+[R], [E]
実行	実行プリファレンス	[Alt]+[R], [U]
分析	仮定グラフ	[Alt]+[A], [A]
分析	予測グラフ	[Alt]+[A], [F]
分析	重ねグラフ	[Alt]+[A], [O]
分析	傾向グラフ	[Alt]+[A], [T]
分析	感度グラフ	[Alt]+[A], [S]
分析	散布図	[Alt]+[A], [E]
分析	OptQuestグラフ	[Alt]+[A], [Q]
分析	カスケード	[Alt]+[A], [C]
分析	すべて閉じる	[Alt]+[A], [L]
分析	レポートの作成	[Alt]+[A], [R]
分析	データの抽出	[Alt]+[A], [D]
ヘルプ	コントロール・パネル・ヘルプ	[Alt]+[H], [H]

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントへのフィードバックをお送りください: epmdoc_ww@oracle.com

次のソーシャル・メディア・サイトでEPM情報開発をフォローできます:

- LinkedIn - http://www.linkedin.com/groups?gid=3127051&goback=.gmp_3127051
- Twitter - <http://twitter.com/hyperionepminfo>
- Facebook - <http://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>
- Google+ - <https://plus.google.com/106915048672979407731/#106915048672979407731/posts>
- YouTube - <http://www.youtube.com/user/OracleEPMWebcasts>

著作権情報

Oracle® Crystal Ball Accessibility Guide,

Copyright © 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクルおよびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

